

学びのふりかえり 通信 vol.1

編集委員：（一社）みやぎ連携復興センター：高橋

地域のわざや魅力を発掘し 「体験プログラムで地域をリ・デザイン」



1月31日、南三陸研修センターにて、「南三陸町里山交流促進協議会」を主催とする第1回勉強会「人が集う里山を考える勉強会」が開催されました。

町内からは30名を超える参加者が集まり、「地域の信頼関係のもと、女性、若手移住者などの力を生かしながら、里山に人々が集い、地域をどのように活性化していくか」を考えていきたいと思いますとの呼びかけにて、勉強会がスタートしました。

ゲストの（一社）くりはらツーリズムネットワークの大場さんからは、栗原市内の地域の人々の暮らしの中に根付く「わざ」をプログラムとしてコーディネートされてきた実践について語られました。プログラムづくりのコンセプトとして、①少人数、②短時間、③持ち帰りを大切にしていること、暮らしという「内」を地域外の「外」へプログラムとしてリデザインし、発信することなどが共有されました。大場さんが楽しみながら活動を続けてきたこと、「まで」な暮らしを大切にすること、まずは地域内の人々が楽しめる活動することなどに共感した参加者の方が多かったようです。

（プログラム）

1. はじめに
2. 講師ご紹介
3. 講演
（一般社団法人くりはらツーリズムネットワーク：大場寿樹様）
4. 質疑応答・感想
5. おわりに



「熱心にお話に耳を傾ける参加者の皆さん」

学びのふりかえり 通信 vol.1

編集委員：（一社）みやぎ連携復興センター：高橋

質問	参加者の声（アンケート結果より一部抜粋）
本日の勉強会で最も印象に残ったことはなんですか？	・丁寧なプログラムづくりと実績で105人の会員が毎年のプログラムを実施していること。継続ほど難しいことはないと思います。 ・くりはらツーリズムネットワークで取り入れている事業は多種にわたり、子どもから高齢者まで参加できる内容だと思いました ・地元密着の活動を積み重ねて、ねばり強くかつ楽しみながら体験プログラムを練っておられることが、とても素晴らしいと思いました。 ・地域の人たちが楽しむ=集うということ。少しずつ、じわりと周囲を巻き込むことができるのは、楽しみ方がきちんと伝わってこそだなと思いました。“交流”はその次か！！なるほどでした。 ・体験プログラムは、普段から使っていることでなければ持続できないと感じた。また、普段気づかずに行っているワザを外に向けて行うという考え方が大切だとも感じた。 ・“までに”というキーワード。“までなくらし”をしていきたいですね。
入谷地区の交流促進・地域づくりを進めていくうえで、必要だと思うこと、あるいは課題だと感じていることはなんですか？	（必要だと思うこと） ・入谷地区、各地区、南三陸町、県北地区などの特徴を理解する ・地域をとりまとめていく裏方的に動ける人 ・熱意。地元の人々の若い人たちの巻き込み（会合に忙しくて出られない人の声も拾うこと ・10年後、20年後を具体的にイメージすること ・経済性より文化・伝統を大事に考える地域になってほしい ・入谷地区ならではのことがたくさんあるはず。これからの活性化に、人が集い楽しむ地域にしたい ・“地域全体で”お金を稼ぐことを考えたい。営利になる団体や事業で、非営利の活動や団体を支える。公益性の高い団体や活動だけがしんどい思いをしないように。 （課題だと感じること） ・様々な人や団体がばらばらに活動していること。文化・風習・わざについて学びたいけれど場が少ないし絶滅しかかっている。もったいない… ・地区の人が地区のよさを知ること ・世代間の交流が少ない。若者が集りにくい。 ・入谷在住or出身の若者の参加！！（20～30代）
ご質問や、今後の協議会の活動について要望があればお書きください。	・くりはらツーリズムネットワークのようなしくみがあればよい。いきなりは難しいので、今回のような会を続けてほしい。 ・日中は勤めもあり大変ですが、ぜひ入谷独特の活動をしたいと思います。 ・入谷を活気づけたい！ ・入谷地区で通年で楽しむことを考える機会がほしい。 ・最終的にプログラムをつくってみたいです。 ・勉強会の最終目標は何ですか？

編集後記：入谷地区のみなさんの地域づくりへの想いがあふれる熱い夜だったと思いました。これからのWSもみなさんと一緒にいいものにしたいと思いますので、よろしくお願いします。（高橋）